

## 2022 北海道レフェリーアカデミー第8回 (通算18回) 事業報告

報告: 濱岡優太 (函館地区)

【日時】 2022年11月12日(土)、13日(日)

【場所】 苫小牧緑ヶ丘公園サッカー場

【参加者】 審判員: 一瀬哲平、濱岡優太、山口麗弥

インストラクター: 古曾部統太郎氏(RAM)、伊藤真也氏(RAI)、今川一輔氏(RAI)、岡田渉氏(RAI)

オブザーバー: 山崎裕彦氏(RDO)、丑屋幸大(苫小牧地区審判員)、高橋陽斗(十勝地区審判員)

【研修内容】

アカデミー終了後を見据えて(自己分析と、課題解決方法の計画実行のために)

11月12日(土)

9:30 集合

11:00 試合実践1 第8回南北海道高校サッカー新人大会1回戦

函大有斗高校 vs 駒大苫小牧高校 主審 山口麗弥

〈自己分析〉

カウンターに対する動きだしは良かった。しかし、ポジション取りが内々すぎると感じた。幅をとるために動き出しの最初を横に数歩をとることをチャレンジしたが、そもそもの到達点とする位置がPA角であり、幅が広いとは言い難いものでした。動き出しが早すぎて逃げ場が無く、自分の首を絞めている部分もあり、意識を根本から見直さないといけないと思った。後半にボールが当たったシーンも、回避行動よりもその前の位置取りに課題を感じた。



〈INS コメント〉

3分、22分の動き出し、5分の体の向き、28分のステップワークはその状況に合わせた良い動きでした。また7分の幅をとるための動きの実践も良かったです。

13:00 試合実践2 第8回南北海道高校サッカー新人大会1回戦

函館大谷高校 vs 伊達開来高校 主審 一瀬哲平

〈自己分析〉

一貫性を持ち毅然とした態度で判定ができた。特に競り合い・ホールディングに関して細かく判定することができたため、強度を保ちながらもずるいファウルは許さなかった。課題点としては、伊達開来のDFからキックされたボールをGKが直接キャッチした際にバックパスと判断しなかったが、どのような流れでそうした状況に至ったか、DFのキックはパスだったのかクリアだったのかという全体像を持っていなかった。競技規則を運用するためにも的確な監視に努めなければならない。1試合を通して多くの判定では、的確な位置で判断を下す事ができた。試合の流れに合わせる上で、攻守の切り替えやチームの戦術に応じて汎用的な判断をしていく事が必要であると学んだ。

#### 〈INS コメント〉

比較的コンタクトプレーが少なく、ファウル事態もそんなに多くない試合だっただけに、前半8分伊達DFが自チームGKにパスを出し、GKがキャッチした場面の対応に課題があった。また、試合前の用具チェック時に函館の14番、6番のアンクルテープもソックスと同色ではなかったため、レフェリーとして対応して欲しいと考える。前半27分、A2とのコーポレーションでファルなのか、ゴールキックなのか、コーナーキックなのか、判断する上で、スムーズ性に欠けた事象があった。試合前の打ち合わせ等で時間がなかったにせよ、主審としてイニシアティブをとり、A2の対応を落ち着いてやって欲しかった。

13:00 試合実践3 第8回南北海道高校サッカー新人大会1回戦

苫小牧中央高校 vs 室蘭栄高校 主審 濱岡優太

#### 〈自己分析〉

前々回から意識している動きだしの速さに関しては、必要なところでは効果的に走り出せていたが、不必要なところでは逆に距離を離され事象がクリアに見えていなかった。26分の警告の場面では1分前からのポジショニングに課題があった。受け手の選手に完全に背中を向けて



いて、自分の頭上をボールが通ってしまった。もっと外に開き両選手を認識しなければいけない。また、その後の中から外へ展開された際に、ポジションを逆にとつてしまい距離を大きく離された。それによって警告の事象のボールに当たりそうになり、振り向き際の判定で加害者がどれくらいの距離から、どれくらいのスピードで接触したのか認識していても自信や説得力に欠けてしまう。判定が正しくても、そこに至るまでとその後間違いがあると明確に、明瞭に見えていることにならないと思うので、プロセスを意識し大切にしたい。

#### 〈INS コメント〉

ファウルの判定は概ね正しく感じた。ADVの適用についての判断で「すばやく、大きなチャンスとなる攻撃ができる機会にあるか」の部分を確認したい(7分、68分)。44分のPK判断(中央

2に対し遅れて栄5のチャレンジ)は正しく判定されていました。動き出しについては、GKからのリリース時やDFから大きく前線に蹴られた時は特に良かったので継続しましょう。気になったのは中盤の動きです、自分の付近にボールが来たときにポジションが下がってしまうため、ゴール前にボールが蹴られた時に大きく離れてしまうことがありました、方法はいろいろあると思いますが、1つとして下がりながらも大きく開きながら前進するのはどうでしょうか。この動きが随所に出てくるとオフサイドの気づき遅れも無くなってくるのでは無いでしょうか。

16:00 ディスカッション「アカデミーweb 全国研修に向けて」

12月10日に行われるアカデミーの全国研修に向けて「北海道RAC」の活動を通して成長したことについて話し合った。その後プレゼン用のパワーポイントの準備をして、それぞれの発表の役割分担を行った。

17:00 緒連絡・解散

11月13日(日)

8:00 集合

9:30 試合実践4 第8回南北海道高校サッカー新人大会準決勝

北海道大谷室蘭高校 vs 駒澤大学苫小牧高校 主審 一瀬哲平 副審 濱岡優太

#### 〈自己分析〉

1試合を通して、タフでフェアなゲームであった。判定基準としては、ホールディングなどのずるいファウルやレイトタックルに対しては細かくとり、不用意なものに対しては積極的にアドバンテージを適用した。アドバンテージを適用した背景には、笛が鳴るまで選手はプレーを継続していたため、試合を止めるよりも流れというものを尊重した。しかしながら、どの試合でも有効な方法であるとは言えない。アドバンテージによって、試合の熱を落ち着かせることができず選手のテンションを上げてしまい、タックルに勢いをもたらす可能性があるからである。また、効果的かどうかは課題が残った。前提として大きなチャンスに繋がることを目的であるため、考慮事項の理解と運用について善処していきたい。

#### 〈INSコメント〉

判定については、概ね一貫性があり、特に後半11分、12分、13分、15分と連続してファウルと判定した事象は、その後のゲームコントロールに結びついたと思われます。アドバンテージについては、特に後半18分の適用はロールバックも含め正しい解釈でした。また駒澤18分の警告も妥当と考えます。後半32分、34分駒澤スローイン位置修正は、適切なマネジメントである。この部分は妥協せず続けて頂きたい。パブリックマネジメントについて、伝え方、人の心に染み込むようなコメントや立ち振る舞いを一緒に学びましょう。

9:30 試合実践5 第8回南北海道高校サッカー新人大会準決勝

函館大谷高校 vs 苫小牧中央高校 主審 山口麗弥

#### 〈自己分析〉

ペナルティーキックの判定を前半にしたが、間違いはなかったと思います。この判定の後から立て続けにベンチから声が上がっていました。言っている内容はアピールであったが、高校生年代の試合では大人のベンチスタッフの大きく通る声は選手に伝播します。ベンチ対応に行かなかったことにより、後半は選手が言いたい放題でした。選手個人には対応はしたものの、その根本であるベンチスタッフに対応していれば、異議による警告もなかったかもしれません。

#### 〈INS コメント〉

PA内の判定場面の位置や事象を横から見ようとする姿勢は良いと思います。また全体的な動きは試合にマッチした動きで最後まで余裕で走り切る様子も伺えました。確かにベンチの声は、アピールというよりは異議に近いものがあつたし、明らかなジェスチャーもあつたので、その後のゲームコントロールや選手がプレーに集中できる環境を作るということを考えるとよかつた。

### 13:00 試合実践6 第8回南北海道高校サッカー新人大会決勝

駒澤大学苫小牧高校 vs 苫小牧中央高校 主審 濱岡優太 副審 一瀬哲平

#### 〈自己分析〉

D項目（動きとポジショニング）に関しては要改善するべきである。バックラインから前線へ蹴られたときの動き出しはできていると思うが、中盤でパスを繋いでいるときの次のポジションへの動き出しが全くできていない。またポジションをどこに取ろうか迷っている場面が多く見られる（特に25分以降）。常に首を振って、前線の動きや意図、出し手がどこに出そうとしているのか、どこにスペースがあるのかなど常時情報を得ることを意識しなければならない。動きの幅がなかつた。特にアシスタントサイドに入るのが遅れている。遅れていることで距離が離され、そのまま中で足が止まっていた。レフェリーサイドでサイドステップや体の向きを変えながら、寄り過ぎずある程度の距離感を保っていると、アシスタントサイドも遅れないと思う。

#### 〈INS コメント〉

判定基準は1試合を通して的確であつたと考えます。悪天候、チームが1日で2試合目であつたからか、悪質なコンタクトプレーもなく、フェアな試合であつた。後半18分と22分の駒澤13番が中央GKの前に立ち邪魔をしているのを気づいて対応して欲しかつた。また負傷者対応も悪天候や一日2試合目という考慮をし、早めの判断をして欲しいと考えます。

16:30

緒連絡・解散

